

福島第一原子力発電所の状況

平成 27 年 2 月 17 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/17 11:00 時点)

| 号機 | 注水状況 | | 原子炉压力容器 下部温度 | 原子炉格納容器 圧力 | 原子炉格納容器 水素濃度 |
|-----|-----------|--------------------------------|-----------------|---------------|-----------------|
| 1号機 | 淡水 注入中 | 炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h | 15.2 | 4.2 kPa g | A系： 0.02 vol% |
| | | 給水系：約 2.3 m ³ /h | | | B系： 0.04 vol% |
| 2号機 | 淡水 注入中 | 炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h | 20.1 | 4.79 kPa g | A系： 0.05 vol% |
| | | 給水系：約 2.0 m ³ /h | | | B系： 0.03 vol% |
| 3号機 | 淡水 注入中 | 炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h | 18.1 | 0.20 kPa g | A系： 0.07 vol% |
| | | 給水系：約 1.9 m ³ /h | | | B系： 0.06 vol% |

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/17 11:00 時点)

| 号機 | 冷却方法 | 冷却状況 | 使用済燃料プール水温度 |
|-----|----------|------|-------------|
| 1号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 11.0 °C |
| 2号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 25.3 °C |
| 3号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 19.3 °C |
| 4号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 6.7 °C |

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドへの注水を適宜実施。

【6号機】

・H27/2/18～2/19 6号機原子炉建屋6階燃料プール冷却浄化系（以下、FPC系）の弁付近からの漏えいについては（H26/7/11 発生）、現在、漏えい箇所である当該弁キャップ部に止水処置を実施し、FPC系によるプール冷却を継続しているが、漏えいがあったFPC系プール入口弁（G41-F042B）（以下、当該弁）の分解点検を実施予定。（作業予定時間：24 時間）

分解点検は、FPC系を停止して実施するが、当該弁は使用済燃料プール（SFP）の通常水位以下に設置された弁であること、また点検のため隔離する弁がないことから、点検可能な位置までSFP水位を低下させてから作業を実施。

このため、特定原子力施設に係る実施計画「Ⅲ 特定原子炉施設の保安」（以下、「実施計画」）第2編第55条の表55-1で定める「使用済燃料プールの水位」の運転上の制限「オーバーフロー水位付近にあること」を満足出来ない状態となることから、実施計画第2編第74条第1項（予防保全を目的とした保全作業を実施する場合）を適用し、計画的に運転上の制限外に移行し、点検を実施。

なお、6号機SFP水温度については、現在（2/17 16:00）17.5°Cであり、2/18 時点の冷却系停止時のプール水温度上昇率は 0.273°C/hで、SFP水温上昇は最大で約7°Cと評価。よって、運転上の制限値 65°Cに対して余裕があり、SFP水温度の管理上は問題はない。また、点検作業期間中は、SFP水温度および水位を常時監視しながら作業を実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

| 号機 | 排出元 | → | 移送先 | 移送状況 |
|-----|---------------|---|--------------------|-------------------------------|
| 2号機 | 2号機 タービン建屋 | → | 3号機タービン建屋 | 2/15 10:14 ～ ～ 2/17 9:53 移送実施 |
| | | | 集中廃棄物処理施設（高温焼却炉建屋） | 2/17 10:57 ～ 移送実施中 |

| | | | | |
|-----|-----------|---|--------------------|-------------------|
| 3号機 | 3号機タービン建屋 | → | 集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋) | 2/9 10:41 ~ 移送実施中 |
|-----|-----------|---|--------------------|-------------------|

- ・H27/2/17 10:11～11:44 共用プールLCW廃液受タンク水について、集中廃棄物処理施設高温焼却炉建屋への移送を実施。なお、移送停止後の状況については、屋内及び屋外パトロールを実施し、漏えい等の異常がないことを確認。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (2/17 11:00 時点)

| 設備 | セシウム吸着装置 | 第二セシウム吸着装置(サリー) | 淡水化装置(逆浸透膜) | 淡水化装置(蒸発濃縮) | 多核種除去設備(ALPS) | 増設多核種除去設備 | 高性能多核種除去設備 |
|------|----------|-----------------|--------------|--------------|---------------|-----------|------------|
| 運転状況 | 運転中*1 | 運転中*1 | 水バランスをみて断続運転 | 水バランスをみて断続運転 | ホット試験中*2 | ホット試験中*2 | ホット試験中*2 |

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
- 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
- 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
- 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
- 10/16～11/6 2号機海水配管トレンチ開削ダクトにて間詰め充填工事を実施。
- 10/20～11/2 2号機海水配管トレンチ立坑Aにて間詰め充填工事を実施。
- 11/17 9:39～15:22 グラウト充填工事に先立ち、凍結止水の効果確認、2号機タービン建屋と立坑の接続部の連通性確認および2号機海水配管トレンチ内への地下水流入確認を実施するため、2号機立坑Cから海水配管トレンチ内の滞留水を集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)に移送を実施。移送中および移送後の状況については、漏えい等の異常がないことを確認。
- 11/25～ 2号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。なお、閉塞材料の充填作業により、当該トレンチの水位上昇が予測されることから、福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画に定められている、運転上の制限(OP+3.5m)を超えないよう管理し、当該トレンチ内の滞留水を必要に応じて2号機タービン建屋へ断続的に移送。
- 12/24 10:02～12:31 2号機海水配管トレンチについては、トンネル部の閉塞作業が終了したことから、各立坑の水位を変化させトンネル部に水みちがないことを確認するため、2号機立坑C北および2号機立坑Aから2号機タービン建屋への滞留水の移送を実施。
- H27/1/20 10:00～11:00 2号機海水配管トレンチについて、再度トンネル部の連通性を確認するため、トレンチ内の滞留水を2号機立坑Aから2号機タービン建屋へ移送を実施。なお、移送中および移送後の状況については、漏えい等の異常がないことを確認。
- H27/2/5 10:00～ 3号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。なお、閉塞材料の充填作業により、当該トレンチの水位上昇が予測されることから、福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画に定められている、運転上の制限(OP+3.5m)を超えないよう管理し、当該トレンチ内の滞留水を必要に応じて3号機タービン建屋(3号機タービン建屋の滞留水の状況により、2号機タービン建屋または4号機タービン建屋)へ断続的に移送。
- H27/2/14～ 4号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。また、グラウト充填工事により、当該トレンチの水位上昇が予測されることから、当該トレンチ内の滞留水を必要に応じて4号機タービン建屋に断続的に移送する。
- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、陸側遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- 6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- 10/3～ 陸側遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。

- ・H27/2/16 11:15 頃 発電所構内北側にある瓦礫一時保管エリアA1のAテントにおいて、屋根の一部が破損していることを当社社員が確認。
- 11:24 2/15 朝以降のモニタリングポストおよび構内ダストモニタの指示値に有意な変動がないことを確認。

その後、状況を確認した結果、屋根(縦:約 51m、幅:約 35m、面積:約 1,785m²)の上部北西側末端部でシートが縦:約 3.6m、幅:約 15m(面積:約 54 m²)に亘って破れていることを確認。なお、当該テントには周囲を土のうで遮蔽している高線量金属瓦礫(線量 30mSv/h 未満)約 20m³と金属容器に封入している高線量金属瓦礫(線量 30mSv/h 未満)約 120 m³を保管している(保管容量は 2,400 m³)。また、当該テント外側の空気中放射性物質濃度は屋根破損後も検出限界値未満であることを確認。今後、破損部の修理を実施。

<テント内側(採取時刻:2/16 12:27~12:47)>

セシウム 134: $6.7 \times 10^{-6} \text{Bq/cm}^3$

セシウム 137: $2.4 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$

<テント外側(採取時刻:2/16 12:01~12:21)>

セシウム 134: 検出限界値未満(検出限界値: $1.8 \times 10^{-6} \text{Bq/cm}^3$)

セシウム 137: 検出限界値未満(検出限界値: $2.8 \times 10^{-6} \text{Bq/cm}^3$)

- ・H27/2/17 10:00~ 現在待機状態となっている、非常用窒素ガス分離装置の本格点検を実施。(本点検は、3/2 まで実施予定。)

なお、当該点検にあたっては、特定原子力施設に係る実施計画「Ⅲ 特定原子炉施設の保安」(以下、「実施計画」)第1編第25条に定める運転上の制限を満足できない状態となるが、実施計画第1編第32条第1項(保全作業を実施する場合)を適用し、計画的に作業を実施。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1~12 のサンプリングを継続実施中。
- ・地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の当社および第三者機関による分析結果[採取日:2/5]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。2/16 10:12、海洋への排水を開始。同日 10:18 に漏えい等の異常がないことを確認。同日 16:49 に排水を停止。排水停止状態において異常のないことを確認。排水量は 1,667m³。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上